

Syllabus Id	Syl-06492
Subject Id	Sub-062000130
更新履歴	20060116 新規
授業科目名	文学特論 Specially Literature
担当教員名	大石加奈子
対象クラス	機械工学科 4 年生 / 制御情報工学科 4 年生
単位数	2 高専単位
必修 / 選択	必修
開講時期	H18 通年 / 前期 / 後期
授業区分	人文
授業形態	講義
実施場所	物質工学科棟

授業の概要

21 世紀の複雑化するコミュニケーション社会に対応していくために必要な言語能力を養成する。情報化社会に生きるビジネスパーソンとして、すぐに役立つ論理思考力および表現力を培う。

準備学習

現代文の基礎：1 語句の理解 2 段落の区分 3 論の展開の把握 4 要旨の把握 5 文章の要約

	重み	目標	説明
学習・教育目標		A	工学倫理の自覚と多面的考察力の養成
		B	社会要請に応えられる工学基礎学力の養成
		C	工学専門知識の創造的活用能力の養成
		D	国際的な受信・発信能力の養成
		E	産業現場における実務への対応能力と、自覚的に自己研鑽を継続できる能力の養成
C:工学的な解析・分析力、及びそれらを創造的に統合する能力			
学習・教育目標の達成度検査	1. 該当する学習・教育目標についての達成度検査を、年度末の目標達成度試験を持って行う。 2. プログラム教科目の修得と、目標達成度試験の合格を持って当該する学習・教育目標の達成とする。 3. 目標達成度試験の実施要領は別に定める。		

授業目標

- 1 工業技術を学ぶうえで基礎となる、適切な言語表現ができること。
- 2 実社会で役立つ研究課題に対し、学生自身が会議を通じて、アイデア創出、計画立案ができること。
- 3 論理図解を用いて説得力のあるプレゼンテーションができるようになること。
- 4 聴き手のベネフィットを訴求し、インタラクティブに話をすすめられること。

授業計画 (プログラム授業は原則としてプログラム教員が自由に参観できますが、参観欄に×印がある回は参観できません。)

回	メインテーマ	サブテーマ	参観
第1回	前期オリエンテーション	プログラムの学習・教育目標、授業概要・目標、スケジュール、評価方法と基準、等の説明	
第2回		PBL 方式による演習の開始 研究テーマの決定	
第3回		結論の出る会議の仕方 ファシリテーターの役割	
第4回		図書館・情報処理教育センターでの資料の収集	
第5回		グループマインドマッピングによる視覚化された会議の方法	
第6回		新しいアイデアを出す方法 プレゼンテーションシート等	
第7回		プレゼンテーションのシナリオをロジカルに組み立てる	
第8回		問題解決型シナリオを使う	
第9回		説得力のある伝達方法について	
第10回		説得力のある伝達方法について	
第11回		画面作成 プレゼンテーションのリハーサル	
第12回		パワーポイントを用いてプレゼンテーションを行う 1 回目	
第13回		パワーポイントを用いてプレゼンテーションを行う 2 回目	
第14回		研究報告書作成	

第 15 回	前期末試験		×
第 16 回	後期オリエンテーション	プログラムの学習・教育目標、授業概要・目標、スケジュール、評価方法と基準、等の説明	
第 17 回		ロジカルプレゼンテーションのレベルアップ	
第 18 回		傾聴力を高めるフィードバック話法	
第 19 回		プレ社会人としてのコミュニケーションスキル 敬語表現	
第 20 回		面接試験での自己表現法	
第 21 回		エントリーシートの作成方法 志望動機、自己PRの書き方	
第 22 回		企業あての通信文：資料請求のメール、履歴書に同封する添え状の書き方	
第 23 回		会議を成功させるファシリテーション型会議を学ぶ	
第 24 回		チームで問題解決をする、ポストイットを用いた会議 1	
第 25 回		チームで問題解決をする、ポストイットを用いた会議 2	
第 26 回		論理的なビジネス文書の書き方 1	
第 27 回		論理的なビジネス文書の書き方 2	
第 28 回		調査報告書を書く 1	
第 29 回		調査報告書を書く 2	
第 30 回	後期末試験		×
課題とオフィスアワー 授業中に課題について説明 提出期限：出題した次の週 提出場所：担当者の研究室 オフィスアワー：昼休みおよび放課後 場所は担当者の研究室			
評価方法と基準 評価方法 <ul style="list-style-type: none"> ・研究した内容を明確に伝える訓練として、OHP あるいは口頭により発表させる機会を設ける。 ・受講している他の学生たちとの質疑応答を通じて、研究内容を改善させ論を発展させる。 ・主たる評価基準は、1 独創性 2 論旨の明確さ、3 表現力 4 構成力 ・学生たちが、その評価基準によって自己評価を行う。また同評価基準によって互いを評価しあうことで切磋琢磨する。その結果を成績の 10% に反映させる。 ・改善されたものは、研究報告書として仕上げ、提出する。 			
評価基準 前期試験（レポート）40%、後期試験（レポート）40%、プレゼンテーション 10%、授業態度（ノート検査等）10%、			
教科書等	授業毎にプリントを配布する。		
先修科目	国語		
関連サイトのURL			
授業アンケートへの対応	ビジネス・コミュニケーションの活性化を目指した授業内容の充実		
備考	1. 試験や課題レポート等は、JABEE、大学評価・学位授与機構、文部科学省の教育実施検査に使用することがあります。 2. 授業参観されるプログラム教員は当該授業が行われる少なくとも1週間前に教科目担当教員へ連絡してください。		